

本州・九州連携における検討課題 について

本州・九州連携における検討課題

- ① 本州・九州間の道路交通による人流・物流を担うのは関門橋、関門トンネルの2つのルートに限られているが、国道2号の慢性的な渋滞や老朽化等に伴う通行止めの頻発化といった課題を有している。

下関北九州道路が令和7年12月23日に都市計画決定され、整備された場合、本州・九州を繋ぐ3つ目のルートが新たに確保されることとなる。

関門海峡周辺の道路ネットワークは、本線やその前後の道路規格や渋滞状況などが異なっていることに加え、異なる料金体系や有料・無料が混在している。

⇒ 本州・九州地域の現状や将来像を踏まえ、本州・九州間連携の重要性を明確にするとともに、既存のネットワークを含む本州と九州を繋ぐ3つのルートのうちの1つとしての下関北九州道路の役割を明らかにすべきではないか

⇒ その上で、本州と九州を繋ぐ3つのルートを効率よく利用するための工夫を検討すべきではないか

- ② 下関北九州道路の計画は、約2kmの海峡部を横断する長大橋梁を有する構造となっており、昨今の物価・資材高騰等を踏まえると、令和2年時点での想定事業費(約2,900~3,500億円)から大幅に増える見込み。

下関北九州道路の整備にあたり、地域からは利用者負担を前提とした有料道路事業活用の要望をいただいている。

⇒ 有料道路事業導入にあたっての利用者負担のあり方を検討すべきではないか

⇒ 建設のみならず管理も含むライフサイクルコストを考慮した、品質向上や施工の効率化等を検討すべきではないか

今後のスケジュール(案)

R8. 1. 21

国土幹線道路部会

本州・九州連携小委員会

〔 検討事項： 本州・九州間の現状・課題
周辺道路ネットワークのあり方 等 〕

第1回
3月2日
(本日)

本州・九州間の現状・課題について 等

適宜、中間報告

- 論点整理
- ヒアリング
・本州・九州間の交通状況について 等

(R8夏頃)

基本方針のとりまとめ

国土幹線道路部会に報告